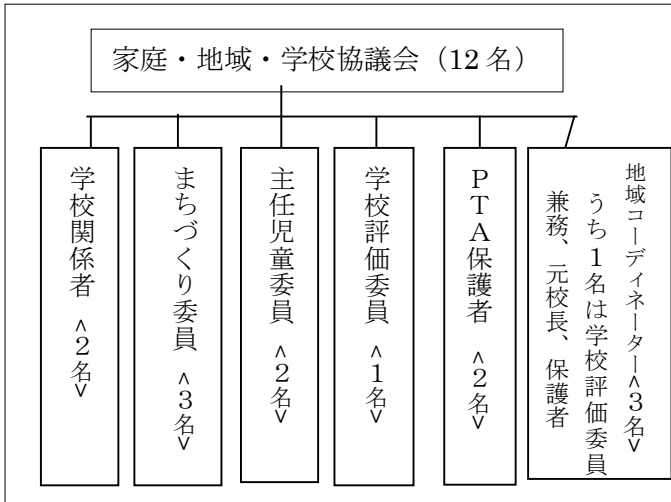


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- ① 実施回数 年2回
- ② 開催日程 9月・2月
- ③ 協議内容
 - ・「スクールプラン」に関すること
 - ・学校行事等の内容の検討
 - ・「学校関係者評価」に関すること
 - ・地域資源（人材と環境）について
 - ・生徒の安全確保に関すること
 - ・地域行事への参加について
 - ・E S Dに関すること

(3) 協議会における成果と課題

協議会では、重点項目の「スクールプランをもとにした学校教育活動への理解と助言」と「学校関係者評価に関する理解と助言」、「地域資源（人材と環境等）を教育活動に活用」について、学校評価（生徒評価・保護者評価・教員評価）の結果をもとに話し合いを行った。学校評価の結果から、スクールプランにある目標に関しては、概ね達成できたことが理解された。また、学力の育成や学校生活（特にいじめ）については、保護者の関心が高いという助言があり、今後の学校教育活動により一層、力を入れていくことを確認できた。また、これまで同様に、地域とつながり地域資源を生かした教育活動に取り組む協力体制の維持についても協力が確認できた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の方々と学校が協力して、体験活動や生徒会を主体としての課題解決型活動を通して、ふるさと勝山に誇りと愛着をもつ子どもを育てる。

(2) 活動の実際

① 「地域の達人から学ぼう」全学年（9月学校祭）

地域に住む達人を学校に招き、達人の技の実技指導を通して体験する。生徒は、達人を通して、自分たちの住む地域の良さを再発見する。



② 「北中まちづくりプロジェクト」生徒会（全学年）（年間）

企画開発したグッズを地域の文化祭や運動会で販売したり、ユニクロの「服のカプロジェクト」活動に協賛し、地域の呼びかけ子供服を集めて戦争避難民に送る活動をしたり、地域の環境保全活動をすすんで行う事で、自分たちの手で地域を盛り上げる。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

・地域と学校をつなぐため、地域に住む達人を紹介し体験活動に協力や家庭地域学校協議会に参加し、地域資源を生かした教育活動の協力体制をつくる。

※地域コーディネーター（3名）
まちづくり委員（3名）

(4) 特に工夫した事項

体験活動を行うための地域の達人を紹介や北中まちづくりプロジェクトの環境保全活動をする際の地域の協力。

(5) 成果と課題

地域コーディネーターを各地区のまちづくり委員にすることで、学校と地域とのつながりを作ってきている。今後も、まちづくり委員に地域コーディネーターを要請していく。